



—いのち、暮らし、平和が大事！—
日本共産党京都市議会議員

山本 陽子

活動ニュース



VOL.83
2021年10月17日号

〈連絡先〉
日本共産党
山科区生活相談所
山科区西野大手先 8-8
☎ 595-8342

9月議会 ◀◀◀ 決算委員会質疑のクローズアップ!



===【行財政局】===

収支の「好転」を報告しながら、 行革は推進◀◀◀ 矛盾を指摘!

〈山本〉「令和4年度予算の編成について」の通知が発せられた。内容は「現時点においては、令和3年度の一般財源収入の見通しは…令和元年度水準を確保できる見込み」となっており、前年度比で+83億円を試算している。しかしこの点について、「コロナ禍による一般財源収入の大幅な減少は回避できる見通しであるものの…収支が好転しても…財源捻出額を引き下げずに、歳出上限の範囲内での予算編成」をせよ、とある。これは、なりふり構わない福祉・暮らしの予算削減号令ではないか？ 収支が好転するのなら、福祉、暮らし関連の予算削減を踏みとどまる、という検討すらされなかったのか？

→〈金山財政室長〉そもそも前提として、公債償還基金の計画外の取り崩しが、令和2年度決算まで642億円ある。これはいずれ積み戻ししなければならない。今年度の収入が思ったより落ちなかったが、京都市財政の構造を根本的に

解決するようなレベルのものではない。福祉などについては、今の時代に合ったものになっているか、持続可能性が追求できているか、そういう観点から見直しを続けていくことに変わりはない。

〈山本〉本当に市民の暮らしを守らなければと思うなら、福祉暮らしの予算削減は踏みとどまるはずだ。収支が合おうが合おまいが、今どうしても、福祉暮らしの予算を削減したいという市長の本音が出ている。

===【総合企画局】===

行財政改革の「都市の成長戦略」は、 「新たな価値の創造」など、先端企業 の応援ばかり◀◀◀ 99%の中小 零細事業者を底上げし、地域循環 型経済を強化することこそ必要!

〈山本〉京都市は市内総生産6兆円を超える都市規模。そのなかで1兆円を超える京都市の歳出のあり方は、経済に大きな影響を与える。市内業者の受注を高めるべきということは、どの会派でも言われてきたこと。

決算書類調査で環境政策局について調べた。支払先別支払い額上位5社の決算総額は85億円。そのうち68億円が市外業者に流れている。市内業者にその65億円が投じられていればどれほ

どの付加価値を生み、税収増に貢献したかと思う。他にもしかり。委託料や需用費、工事請負費、高額の支出の多くが市外の業者に流れているが、市内事業者の受注率こそ、経済戦略の指標とすべきだ。

→〈西田室長〉市内の中小企業に多くの受注がおりるように取り組んでいるところ。ただ、市内企業の規模によって、請け負える規模に限界もある。中小企業を活性化させるためにも、人や技術、企業との交流を活発化させる必要がある。

〈山本〉建設工事にせよ、物品調達にせよ、京都市からは、市内に対応できる事業者がいなかったか、WTO案件(※)だから有利な市外事業者が選ばれるのは仕方がない、と聞いてきた。そうだとするならば、産業分野別の事業者の育成に京都市は力を尽くしてきたのか、細分化した調達ができなかったのか、反省すべき点はある。目先のコスト削減で市外の大手の受注をよしとすることが、市内事業者の担税力を押し下げてきたともいえるのではないかと。問題ないということでは慢性的な財源不足は解消できない。99%の市内事業者の担税力を強化できるような戦略にすべき。

※WTO案件……「政府調達に関する協定」一定額以上の公共調達について、「海外の企業も入札に参加できる案件」。現実には地域調達が阻まれて、大企業の参入が多額をしめる。

★ラクト前で総選挙タウンミーティング★



市民の願いと政治は直結してる！
選挙が身近になる市民参加型の選挙企画でした。働くものが生きづらさを感じる社会を変えたい！

◆10月24日10時半～2回目やります！

★事務所開き・西友前で訴え(10/9)



消費税5%に減税 暮らし応援 景気回復
貧困なくし 平和な日本へ 政治の中身を変える

ヨココの
ママチャリ子育て日記

家では黙食はできません

議会と選挙で昼も夜もんやわんやになんてきました。子どもたちも、各自の学校生活でがんばっています。朝晩のご飯の時間が、貴重な会話の時間です。今の子どもは食卓に座っても、自分のスマホやパソコンを手元にもってきて食べながら見ようとしています。やめるように注意して、三人でご飯を食べ始めると、今度は次から次と、学校の報告などの話が始まります。姉は、テスト勉強が不十分だったので心配でしたが、「テストの点数〇点でよかったわ。先生の見にくいテスト用紙が改善された！」などと話をすると、弟も「俺は〇点。理科と社会は良かった」と。算数は点数が悪かったらしく、でもあとでちゃんと報告。「あ、このテレビ、見たいな」と私が思っても、子どもたちはおかまいなしにしゃべり続けます。でもね、ごはん中に、ユーチューバーの名前を次々に言っていく、山の手線ゲームを始めると、子どもたちのおしゃべりが止まらないのはびっくりです。

